

会 議 録

会議の名称		令和7年度第1回守谷市地域福祉推進委員会		
開催日時		令和7年7月28日(月) 開会:10時00分 閉会:12時10分		
開催場所		市役所 大会議室		
事務局(担当課)		健幸福祉部 社会福祉課		
出席者	委 員	有原委員、石澤委員、宇佐見委員、森山委員、大久保委員、山下委員、友松委員、小野寺委員、荒川委員、澤田委員、松元委員、永井委員、塚越委員、大塚委員、山口委員、大森委員、佐藤委員 計17人 (欠席者: 川名委員、長津委員 計2人)		
	事務局	羽田健幸福祉部長、森山健幸福祉次長兼健幸長寿課長、高橋社会福祉課長、芳師渡社会福祉課長補佐、高橋事務局長、北川係長 計6人		
公開・非公開の状況		☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開	傍聴者数	1人
公開不可の場合はその理由		守谷市審議会等の会議の公開に関する指針		
会議次第		1 開 会 2 あいさつ 3 議 題 (1) 委員長・副委員長の選出について (2) 第3期地域福祉計画・地域福祉活動計画 令和6年度 of 取組評価及び令和7年度の取組目標 (3) 重点政策の現状と今後の展望について ①生活困窮者自立支援制度(社会福祉課) ②シニアクラブ及びシニアサロン活動事業(健幸長寿課) ③ボランティアセンター及びほほえみサービス事業(社会福祉協議会) (4) その他 4 閉 会		
確定年月日		会議録署名		
令和7年8月15日		委員長	森山 克彦	
		議事録署名人	有原 勉	
			石澤 成浩	

1 開 会

2 あいさつ

委員及び職員の自己紹介

3 議 題

(1) 委員長・副委員長の選出について

委員長は大井沢地区まちづくり協議会代表の森山委員、
副委員長は民生委員児童委員（中央地区）代表の荒川委員に決定

(2) 第3期地域福祉計画・地域福祉活動計画 令和6年度の取組評価及び令和7年度の取組目標 高橋社会福祉課長から資料1に沿って説明

主なご意見・ご質問

■ 大久保委員

まちづくり市民アンケート（以下、「アンケート」という。）の数値を評価指標としているが、アンケートの概要を教えて欲しい。また、資料にも概要を記載するようにしてほしい。

➤ 高橋社会福祉課長

アンケートは、市の現状やまちづくりの取組に対する満足度や市が進める主要な施策に対するご意見等を把握するため企画課で実施したものである。調査期間は令和7年1月20日（月）～令和7年2月12日（水）であり、アンケートは3年に1度実施している。調査対象者は、無作為に抽出した市内在住の18歳以上の方3,000人であり、回収数1,299件、回収率は43.3%となっている。今後は、アンケート概要についても資料に記載させていただく。

■ 宇佐見委員

評価指標において、令和8年度の目標値を記載しているが、これはどのような考え方に基づいて設定しているのか。また、それぞれの世代の方が各施策をどのように評価しているのか、といった分析も必要だと思う。

➤ 高橋社会福祉課長

令和8年度の目標値については、手元に具体的な資料があるわけではないが、第3期計画策定時に令和2年度の現状値を踏まえて各取組事業の到達見込みから目標値を設定している。

アンケート結果については、性別、年代別、居住地区別のクロス集計も実施している。今後、各施策の対象となる世代の方がどのように評価しているのか、といった視点からの分析についても検討していきたいと思う。

■ 佐藤委員

アンケートの回収数1,299件のうち、子育て世代がどの程度なのか。母数が少ない可能性もあるのではないかと思います。

また、資料1の8頁に記載のある「高齢者の総合相談対応件数」については、目標値を超える件数となっている。相談件数が増加傾向にあることは、窓口の認知度が向上しているなどのプラスの側面と、悩みを抱える高齢者が増加しているなどのマイナスの側面があるかと思う。相談件数の増減だけで評価するのではなく、相談件数のうちどの程度解決に至ったのか、という一歩踏み込んだ分析も意味を持つのではないか。

同頁の「子育てに悩みや不安を抱えている保護者の割合」について、保護者のほぼ全員が悩みを抱えていると思う。これについても、高齢者同様、どの程度解決できているのか、といった分析を行ったうえで、対策の必要性を検討してほしい。

➤ 高橋社会福祉課長

アンケートの回答数のうち、子育て世代と想定される数は10代が17名、20代が77名、30代が169名、40代が285名で、高齢者の数は65～69歳が110名、70歳以上が294名である。

➤ 森山健幸長寿課長

「高齢者の総合相談対応件数」は、地域包括支援センターで受けた相談件数である。地域包括支援センターは令和2年度から民間に委託し、市内に2箇所設置している。次期計画の策定に向けて、適正な数値目標の設定について検討していきたい。

➤ 羽田健幸福祉部長

本日の委員会には子ども担当部署の出席はないが、当委員会開催前に関係部署を交えての庁内会議を開催し、取組事業の進捗等を確認している。その場において、「子育てに悩みや不安を抱えている保護者の割合」が増加していることについて議題となったが、子ども担当部署においても相談件数の増加を感じているとのことであった。保護者に寄り添った相談対応ができる体制整備の必要性についても協議を行ったところである。

■ 森山委員

「高齢者の総合相談対応件数」等は、令和8年度の目標値が令和6年度の実績値より低い。令和8年度の目標値は次年度に変更するのか。それとも次期計画で見直しを行うのか。

➤ 羽田健幸福祉部長

目標値を達成した部分のみ目標値を変更するということは予定していない。実態がかなり変わってきている評価指標もあるので、次期計画で目標値を設定する際には適正な目標値を設定していきたい。

■ 大森委員

資料1の4頁にあるもりや公益活動促進協会助成金について、助成団体が前年度比11団体増となっているが、助成団体を教えて欲しい。

➤ 高橋社会福祉課長

もりや公益活動促進協会助成金の詳細については、後日お示ししたい。

■ 大森委員

資料1の8頁にある緊急通報システムの機能や費用等について教えて欲しい。

➤ 森山健幸長寿課長

緊急通報システムは、市内在住の65歳以上のひとり暮らしの方を対象としたシステムである。緊急通報ボタンを押すと、市で委託した警備会社に連絡が入り、警備員が自宅に駆けつけ、安否確認をしてくれる。そのうえで、必要に応じて、救急通報も行ってくれるものである。そのほか、自宅内にセンサーを設置し、24時間反応がなかった場合にも自動で緊急通報が発信される仕組みとなっている。導入費用は、課税の方は1万円、非課税の方は無料である。申込窓口は健幸長寿課及び地域包括支援センターとなっている。

➤ 大久保委員

緊急通報システムの設置目標数はあるのか。

➤ 森山健幸長寿課長

特に設置目標数はない。設置数については、後日お示しする。

➤ 澤田委員

緊急通報システムを導入する際は、警備会社に予め自宅の鍵を預けなければならない。その点を心配され、導入をためらっている方が結構いる。

➤ 佐藤委員

資料2の10頁 事業No.79に緊急通報システムに関わる令和6年度の実施内容の記載がある。利用中止件数が38件であり、結構多いという印象である。

■ 山下委員

アンケートの項目はたくさんあるので、全ての項目を当委員会で検討していくのは難しい。「安心して子育てできるまちだ」という子育て世帯の割合」や「子育てに悩みや不安を抱えている保護者の割合」といった項目が課題なのであれば、当委員会ではそうした課題点について中心的に検討していくのが良いと思う。保育士確保が上手く進んでいないということは従前からの課題であるので、委員の皆様からも様々な提案や他市町村の状況等についてご意見をもらうべきだと思う。

■ 塚越委員

資料2について、次回からは文字を大きくし、見やすくしてほしい。

(3) 重点政策の現状と今後の展望について

①生活困窮者自立支援制度(社会福祉課)

高橋社会福祉課長から資料Ⅰに沿って説明

主なご意見・ご質問

■ 山口委員

重点政策は毎年変わるのか。

➤ 高橋社会福祉課長

今回は生活困窮者自立支援制度を紹介させていただいたが、毎年、市で実施している様々な重点政策を紹介し、委員の皆様からご意見をいただいている。

②シニアクラブ及びシニアサロン活動事業(健幸長寿課)

森山健幸長寿課長から資料Ⅰに沿って説明

主なご意見・ご質問

➤ 有原委員

資料Ⅰの16頁に記載のあるサロン数は市が助成しているサロン数なのか。どのような助成を行っているのか。

➤ 森山健幸長寿課長

市に登録をいただいているサロン数である。市では、活動で使用する消耗品や用具の提供、活動場所の確保等の支援を行っている。助成金の支給はない。

➤ 澤田委員

守谷市内には20のシニアクラブがある。最近では、会員数が30名を下回るシニアクラブが増えてきている。私はみずき野で老人会の会長を務めており、茶話会やスポーツ大会、健康麻雀など、活発な活動を行っている。会員は3年間で100名増えているが、平均年齢が80歳手前なので、数年後には会員数が減少に転じる可能性もある。全国的に見ても、ピーク時には約880万人のシニアクラブの会員がいたが、現在は400万人を下回っている。昨今は、70歳ごろまで就労する方が多いので、シニアクラブに入る方も減少し、運営も厳しくなっていると思われる。

③ボランティアセンター及びほほえみサービス事業(社会福祉協議会)

高橋事務局長から資料Ⅰに沿って説明

主なご意見・ご質問

➤ 塚越委員

令和6年7月からボランティア登録を開始したということであるが、登録数は個人ボランティアが20名、団体ボランティアが7団体ということなので、周知活動をより一層頑張してほしい。

また、「ボランティアや自治会等の地域活動に参加している60歳以上の市民の割合」54.6%に対して、ボランティア活動保険加入者数が1,461名というのは、少ないのではないか。

そのほか、2/15に開催された災害時ボランティア講座は56名の方が参加され、常総市の水害を例とし、非常に参考になる講座であった。また、こうした講座を開催してほしいと思う。

➤ 高橋事務局長

ボランティア登録については、社協だよりや公式XなどのSNSで周知するとともに、各種会議等の場でも周知を図っている。

ボランティア活動保険については、例えば市の事業であれば市の活動保険に入っている方もいる。社協のボランティア活動保険については、あらゆるボランティア活動でも加入することができ、1年間有効なものなので一層の周知を図っていききたい。

災害時ボランティア講座については、今年度も開催する予定なので、様々な個人、団体の方に参加していただきたいと思う。

➤ 永井委員

夏休みボランティア体験の取組はとても良いと思う。これは守谷高校にも周知しているのか。

➤ 高橋事務局長

守谷高校にもポスターを貼付し、周知を図っている。

➤ 杉元委員

様々な現場で人手不足が叫ばれる中、ほほえみサービスのサービス料700円は安いのではないか。守谷市共同募金からの100円以外の600円の出資はなにか。

➤ 高橋事務局長

600円は利用会員にお支払いいただいた利用料である。利用会員にお支払いいただく利用料の値上げも検討したが、まずは守谷市共同募金からの100円の助成という方法での対応となった。ファミリーサポートセンターの時給等とも比較しながら、今後も引き続き検討していきたい。

(4) そのほか

➤ 澤田委員

保育士確保のためには、給料を大幅に上げ採用を進める必要があると思う。また、ヘルパー

不足等により家での生活に困っている方がたくさんいる。保育士同様、ヘルパーについても急速に採用を進めていかなければ、需要に追いつかなくなってしまうと思うので、対応をお願いしたい。

➤ 羽田健幸福祉部長

ヘルパーやケアマネジャーの資格を取得する際の資格費用や研修費用の助成を今年度から開始する。守谷市における介護ニーズ、保育ニーズを踏まえ、市がどのような人材確保支援ができるのかを検討し、当委員会でもご意見を聞いていきたいと思う。

➤ 大塚委員

計画の進捗等を評価するにあたり、アンケートによる評価だけでよいのか、市が関わっている事業の評価だけでよいのか。今後の政策を考える際はそれだけでは妥当だと思わない。私自身も委員として参画していきたいと思うので、この委員会の役割等を示して欲しい。市役所では市民や団体等から寄せられる様々な声や各種データにより、現状の課題を認識していると思うので、それに対して委員として意見をお伝えできればと思う。

4 閉 会

今回は 2 月頃の開催を予定しており、第 4 期計画の策定に向けた協議もお願いする予定。